

# 保健体育科 学習指導案

大阪府教育センター附属高等学校

1. 日時 令和元年11月12日(火) 第2時限 9時40分～10時30分

2. 場所 本校グラウンド

3. 学年・組・教科(科目) 第1学年3・4組(24名)・体育

4. 単元(題材)名 球技「ハンドボール」

## 5. 単元(題材)の目標

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、運動を観察し、作戦に応じた技能でゲームを展開できるようにする。  
【運動の技能、知識・理解】
- ・攻防などにおいて自己やチームの課題を発見し、解決に向けて運動の取り組み方を考え、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。  
【思考・判断】
- ・ハンドボールに自主的に取り組み、フェアな態度を大切にし、作戦などについての話し合いに貢献し、互いに教え合い、健康・安全を確保する。  
【関心・意欲・態度】

## 6. 教材観

本単元は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)保健体育編 体育編の「E 球技 ア ゴール型」に対応している。ハンドボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートをして、一定時間内に相手チームと多くの得点を競い合う球技である。ゲームの中で、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防ができる種目である。また、自己や相手チームの特徴を踏まえた作戦を立てて、得失点の攻防を重視した練習やゲームを展開できる種目でもある。

## 7. 生徒観

(略)

## 8. 指導観

準備や片付けの時に、こちらから指示を出すのではなく、生徒自身が気づき、積極的に行動ができるようにしたい。良い動きや、確認したいことがあれば全体共有するようにしたい。生徒たちが各授業の目標を達成するために考えたり、お互いの意見を出しあったりする場面を作りたい。

## 9. 単元(題材)の評価規準

a 関心・意欲・態度	b 思考・判断	c 運動の技能	d 知識・理解
①技能の段階に応じて、作戦を立てて勝敗を競い合い楽しさや喜びを味わおうとする。 ②練習やゲームで、チームにおける自分の役割を果たし、協力	①チームや自分の課題を解決するための適切な練習や方法などを選んだり、考えたりしている。 ②技能の段階に応じて相手との攻防に合った作戦を立ててい	①自分の能力や課題に応じて、特性に応じた技能を身につけゲームをすることができる。 ②身につけた個人技能や集団技能を高めたり、新たに身につけた	①球技の特性に応じた集団的技術や個人的技術について、具体的に上げることができる。 ②技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て

して教え合ったり励まし合ったりしようとする。 ③練習や試合などの話し合いに貢献し、健康・安全に留意しようとする。	る。 ③チームや自分の課題の達成状況をとらえ、練習やゲームの仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。	技能で攻防を展開してゲームをしたりすることができる。 ③技能の段階に応じて相手との攻防に合ったゲームや練習ができるようにすることができる。	方について、具体例を挙げている。 ③試合の行い方について、具体例を挙げている。
---	---	--	--

10. 単元の指導と評価の計画（全 10 時間）

\*○必要に応じて評価する（指導に生かす評価）  
◎全生徒を評価する（記録に残す評価）

時	学習内容	評価の観点				主な評価規準・評価方法
		a	b	c	d	
1	ハンドボール慣れ、ルールの確認	○			◎	【a②】お互いにパスし合う時にアドバイスしようとしている。(観察) 【d①】動画を見て、ルールやゲームに必要な技能について理解している。(ワークシート)
2	色々なパス、ジャンプシュート		○	○		【b①】パスやシュートで自分の技能についての課題を見つけ練習しようとする。(観察) 【c①】自分の技能についての課題を見つける。(観察)
3	ステップシュート、1対1				◎	【c①】シュートに必要な技能を身につけている。(運動技能のテスト)
4	ランニングシュート、2対1					【b②】攻防について考え、作戦を立てゲームすることができる。(ワークシート) 【c②】ゲームに必要な技能を身につけ、仲間と協力してゲームすることができる。(運動技能のテスト)
5	ランニングパスからのシュート 3対2、3対3					【b②】お互いの技術的にできていない所を指摘しよう。(観察) プレイを確認し各グループで作戦や戦術を考える。(ワークシート・観察) 【c③】安定したボールコントロールができる。(観察) 動きを確認した上で、パスやシュートができる。シュートに対して意識してディフェンスができる。(観察・ワークシート)
6	7mスロー、速攻、ゲーム形式					【c②】ゲームに必要な技能を身につけ、仲間と協力してゲームすることができる。(運動技能のテスト) 【d②】必要な技能について練習方法を挙げている。(観察)
7	テスト、ゲーム形式					【c①】ゲームに必要な技能を身につけている。(運動技能のテスト)

8	ゲーム			○	◎	<p>【c②】ゲームに必要な技能を身につけ、仲間と協力してゲームすることができる。(観察)</p> <p>【d③】ゲームに必要なルールを理解し、チームで作戦を立て、実践している。(ワークシート)</p>
9	ゲーム		◎	○		<p>【b③】チームで何ができているか、できていないかを伝え合い、作戦を立てることができている。(ワークシートの記述)</p> <p>【c③】安定したボールコントロールができる。(観察)</p> <p>動きを確認した上で、パスやシュートができる。シュートに対して意識してディフェンスができる。(観察)</p>
10	ゲーム	◎				<p>【a①】チームで作戦を立てて勝敗を競い合い楽しさや喜びを味わおうとしている。(ワークシート・観察)</p> <p>【a②】練習やゲームで、チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったり励まし合ったりしようとしている。(観察)</p> <p>【a③】練習やゲームなどの話し合いに貢献し、健康・安全に留意しようとしている。(観察)</p>

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標 (第5時)

- ・攻防の中でそれぞれの動きを考え、アレンジすることができる。
- ・基本動作に基づいた投げ方、フットワークを行うことができる。

### (2) 本時の評価規準

- 【b②】相手との攻防に合わせて、それぞれの技能や課題に応じた作戦を立てている。
- 【c③】攻防の中で、相手の動きや空間を意識して動くことができる。

### (3) 準備物

ハンドボール12球、ハンドボールゴール4つ、ビブス12枚、ホワイトボード、マジック

### (4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、整列、挨拶</li> <li>・本時の説明</li> <li>・ゴールを準備させる。</li> <li>・準備運動</li> <li>・ラジオ体操第一</li> <li>・補強運動 (腕立て、腹筋、背筋 各20回、バービー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4列横隊に素早く整列させる。</li> <li>・体調不良の生徒がいないか確認する。</li> <li>・本時は3対2、3対3の攻防をすることを確認する。</li> <li>・全員で協力して準備をさせる。</li> <li>・生徒同士で指示させるよう働きかける。</li> <li>・きちんとできているか声かけを行い、けがをしないよう指示する。</li> <li>・補強運動において正しい姿勢で行わせる。</li> </ul>	

	ジャンプ 10 回) ・ランニング (コート 2 周)	・声をかけあい並んで走らせる。	
35 分 展 開	・パスの練習 ・シュートの確認 ・ランニングパスからシュートを行う。 ・前回の 2 対 1 の確認 ・3 対 2 を行う。  ○スペースを見つけて動いたり、パスを出せたりするかを考える。 ・3 対 3 を行う。	・パス (投げ方、受け方、ゲームで使えるようなパスを 2 人 1 組で考えさせる) ・ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュートの動きを確認する。 ・2 人組でパスをしあい、ゴールに近い者がジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュートを行わせる。 ・攻撃側は守備を引き寄せ空いたスペースにボールを出すこと、守備側はボールカットかパスをカットするかを判断することを確認させる。 ・3 対 2 の攻め方を話し合わせる。  ・攻撃側は数的有利を利用して空きスペースを見つけて攻めることや、守備側はボールカットかパスをカットするかを判断することができるよう指示する。 ・攻撃、守備の数が同じ中での攻防を考えさせる。 (各グループで攻め方、守り方を確認する)	【b】お互いの技術的にできていない所を指摘しあう。(観察) 【c】安定したボールコントロールができる。(観察) 【c】ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュートができる(観察)  【b】プレイを確認し各グループで作戦や戦術を考える。(ワークシート・観察) 【c】動きを確認した上で、パスやシュートができる。シュートに対して意識してディフェンスができる。(観察・ワークシート)
5 分 ま と め	・後片付け ・集合、整列、まとめ ・本時のまとめ ・挨拶、解散	・ボール、ビブスなどを片付けさせる。 ・4 列横隊に集合させる。 ・本時の内容のまとめと次回の課題を確認する。 ・大きな声で挨拶させ、解散させる。	

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる
【b②】	相手との攻防に合わせて、自己や他の技能や課題に応じた作戦を立てている。	自己の技能や課題に応じた作戦を立てている。
【c③】	攻防の中で、自身が相手の動きや空間を意識して動くことができる。	攻防の中で、自身が空間を意識して動くことができる。



C 指導の手立て
生徒自身がどこまでできているかを確認できるような声かけを行う。
どんな場面でスペースが生まれるかを考えさせるように声かけをする。